

■ 壊れている世の中の実情

アメリカで13年間、教会で仕えていた時のことです。ちょうど息子さんが4歳位でした。その頃、自動販売機でコーラを買ったことがあります。それを覚えていて、自動販売機を見るたびに「コーラ」と呼び、買うようになっていました。ある時、同じように自動販売機をみて、コーラを求められましたが、壊れていて、販売停止などの文字が書いてありました。それを息子さんに何度説明しても壊れていることが理解できずにいました。この文字は壊れている(販売停止)であると何度も何度も読みながら説明していました。その後、息子に起こったことは、道路標識や案内看板を見ても「壊れている(販売停止)」と書いてあるように見えて、そのように言っている姿がありました。このことを考えていた時、私たちの世界も壊れていると表現していたことは、あながち間違いではないと思いました。

聖書の時代においても、イエス様が生まれた時もやはり壊れた世の中でした。当時、エルサレムはローマの植民地として治められていました。イエス様が生まれると聞いて、自分の地位が危ういと感じ、同年代の子どもたちをみなごろしにする事件が起きました。また、バプテスマのヨハネも牢獄に入れられ、ある宴会の中で、すばらしい踊りを披露した娘が王から褒美として何がほしいかを聞かれ、その娘はバプテスマのヨハネの首という返答によって、ヨハネは殺されてしまうような壊れた世の中でした。今日の御言葉はそのような時代背景の中において語れた言葉です。

「あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。(マタイ5:13)」

■ ①塩はどのように塩として影響を現すのか

ローマ時代は兵士に塩を給料としてとして渡していたこともありましたが、塩は大切なものでした。塩は腐敗防止の作用もあります。また、食べ物に味をつけることもできます。これは私たちの社会において、私たちがそこに存在していることによって、その場所が良い方向へ導かれていくことを意味しています。それは家庭においても同様です。塩の役目を果たすことによって、家族は仲良くなったり、周囲に良い影響を与えてくることができたりします。

■ ②塩は一番大事

イエス様がなぜ喩えとして塩を選んだのでしょうか。いろいろな味をつけるものは存在していました。しかし、唐辛子、コショウとは喩えられていません。塩はそこにいのちがあるか

らです。人間のからだには塩が0.9%分含まれているそうです。0.9%ですから多量ではありません、しかしこれがなくなってしまうと人間のからだは維持することができなくなります。また人間は4種類に分類することができます。①必要なひと、②どっちでも良い人、③必要でない人、④いてはならない人、だそうです。

もちろん、私たちはこの世において「いてはならない人」ではなく、必要な人として存在しているのです。

私たちは、神様に似たように造られています。ですから御言葉にもありますように、「あなたがたは地の塩です」といわれたのです。必要な存在だからこそ、塩ですといわれているのです。私たちは、家庭、職場・・・など様々な集まりの中において、必要な人なのです。

■ 神様は私たち塩としての、計画があります

塩にはたくさんの種類(岩塩、海塩など)があります。また、その形体にも種類(あら塩、粉塩)があります。周りに影響を与えるために、塩は溶けないと効果がでないのです。岩塩はそのままでは使えません。削っていき、溶けることができない、味をつけることができません。ですから、私たちは塩ですといわれています。であれば、効果を表し、良い影響を流していくためには溶ける必要があるのです。溶けるとき、音などはしません。しかし溶けると効果が出ていきます。私たちが溶ける時、神さまが働き、力をあらわすのです。

家庭において、父、母が溶けると、子どもが溶けていきます。そして子どもが溶けるとよい影響が周囲におよんでいきます。

まとめ

今日、私たちは2つのこと確認したいのです。

①私たちが地の塩であり続けることができずように。すなわち、溶けれない姿になっていないでしょうか。自分のあり方を持ったままでは岩塩のままかもしれません。削られて、地の塩として影響を与えていけるようになりましょう。②十字架の愛によっていのちを救える人になれるように。私たちの周りにはまたイエス様を信じていない人がおられるのではないかと思います。その方々に塩としての役割を示し続け、イエス様の愛が伝わるようになってほしいのです。そのために塩として遣わされているからです。遣わされたところで、溶ける塩となっていきましょう。「私たちは地の塩です」